

第2章

環境の現状

- 第1節 市の概況
- 第2節 地球環境
- 第3節 資源循環
- 第4節 自然環境
- 第5節 生活環境
- 第6節 環境教育・協働

第1節 市の概況

■位置・地勢 | 静岡県の中部に位置し、交通の要衝となっている

- 本市は、北は南アルプスを望む赤石山系の森林地帯から、南は大井川の一部まで東西16km、南北22kmに広がり、面積は約194km²、豊かな自然に恵まれた、歴史と文化の香りあふれるまちです。
- 東海道五十三次の宿場町「岡部宿」「藤枝宿」として栄え、現在もJR東海道本線、東海道新幹線、国道1号バイパス、東名高速道路、新東名高速道路が東西に走る交通の要衝です。
- 地形は北部が山地・丘陵地、南部が平坦地となっており、高根山や高草山などの山や、大井川、瀬戸川、朝比奈川などの河川があります。



本市の交通・標高・地形図

【資料：国土数値情報】

■人口 | 核家族化と少子高齢化が今後も進む

- 国勢調査によると、本市の総人口は近年、増加傾向にあり、2015（平成27）年は143,605人でした。しかし、平均世帯人員が減少する「核家族化」や高齢人口の増加と年少人口の減少が進む「少子高齢化」が進行しており、2015（平成27）年には高齢化率が27.7%に達しました。

■気象 | 冬が暖かく、雪もほとんど降らない温暖な気候である

- 本市の最寄りの気象観測データ（志太消防本部焼津消防署）によると、2018（平成30）年の年平均気温は17.6℃で温暖な気候です。年間降水量は1,851mmで、3～6月、9月に多くなっています。

■土地利用 | 市街地が拡大している

- 2017（平成29）年における本市の土地利用の状況は、山林が46.0%と約半分を占めており、次いで畑が14.7%、宅地が10.7%、田が5.9%となっています。1976（昭和51）年と2016（平成28）年の土地利用の変遷をみると、市南部の市街地が拡大していることがわかります。

■産業人口 | 第1次産業の人口が減少している

- 2015（平成27）年における本市の産業別就業者数の割合は、第1次産業が3.6%、第2次産業が33.5%、第3次産業が62.8%となっています。2010（平成22）年と比べて第2次産業及び第3次産業の就業者数が若干増加しましたが、第1次産業は近年、減少傾向が続いています。

■農業 | 経営耕地面積や農家数が減少している

- 2015（平成27）年における本市の経営耕地面積は1,312ha、販売農家数は1,395戸であり、近年、経営耕地面積及び販売農家数ともに減少傾向にあります。

■工業 | 大企業を中心とした製造業の工場が集積している

- 本市の製造業は、交通の利便性や、良質かつ豊富な水資源などの立地を生かし、大企業を中心として医薬品などの化学工業や食料品のほか輸送用機械器具など工場が集積しています。
- 2017（平成29）年の製造品出荷額等は約4,700億円であり、最近はやや増加傾向にあります。

■商業 | ここ数年は商店数や商品販売額が増加している

○ 2016（平成 28）年の年間商品販売額は約 3,556 億円で、商店数、従業者数と同様に 2012（平成 24）年以降は増加傾向にあります。

■観光 | 年間 253 万人が観光に訪れている

○ 「令和元年度静岡県観光交流の動向」によると、2019（令和元）年度に本市を訪れた観光交流客数は約 253 万人でした。

■歴史 | 旧石器時代から人が住み続けている

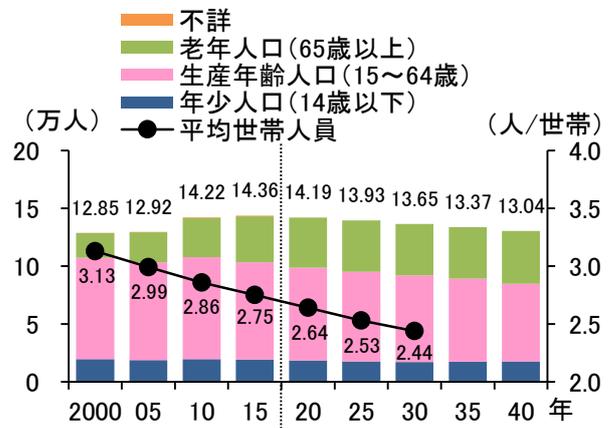
- 藤枝に人が住み始めたのは、今からおよそ1万年以上前の旧石器時代の終わり頃とされています。縄文時代の天ヶ谷遺跡^{あまがやいせき}があり、弥生時代には上藪田などの平地に集落や水田がつけられました。
- 江戸時代になると田中藩が志太平野の村々を治め、また、藤枝は東海道五十三次の宿駅として上り下りの旅人で賑わいました。
- 現在では、藤とサッカーと東海道のまちとして、その名が全国に知られています。

■文化財 | 101 件の指定・登録文化財がある

○ 本市には、2019（令和元）年末時点で 101 件の指定文化財・登録文化財がありますが、このうち、環境分野にも関連する天然記念物と史跡は 30 件です。

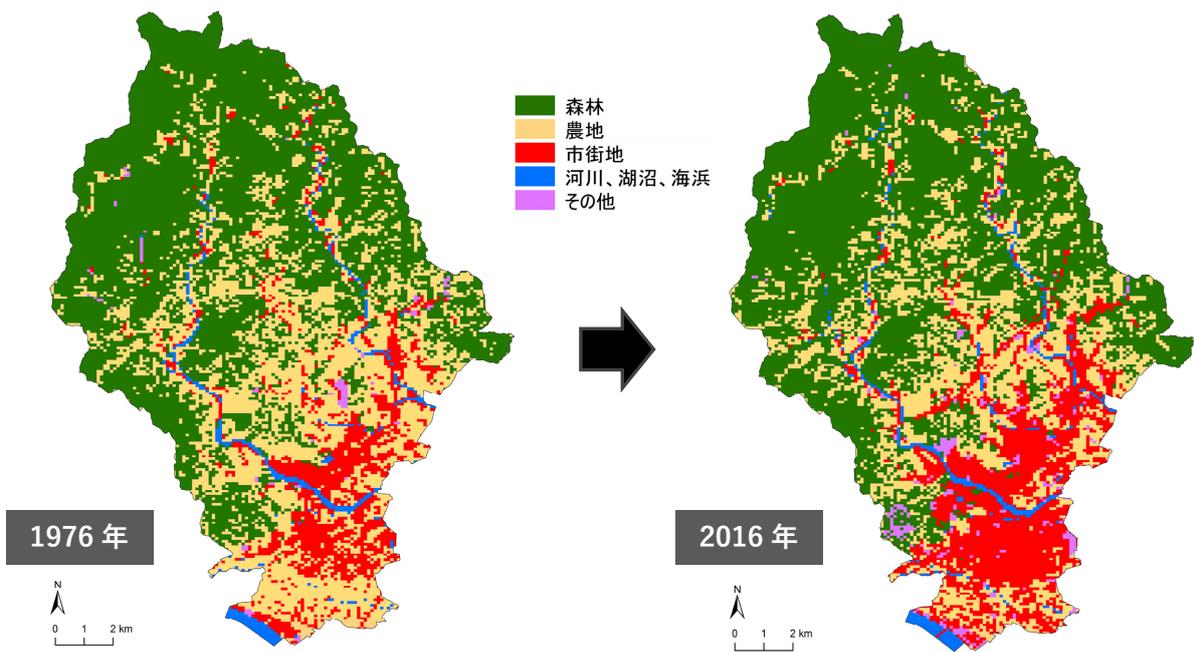
■景観 | 藤枝市景観計画を策定・推進している

○ 本市には、瀬戸川や朝比奈川などの清流や、北部から連なる山並みなどの緑豊かな自然景観、旧東海道の宿場町、本市のシンボルでもある蓮華寺池公園の景観、南部に広がる農地景観など、藤枝らしい特徴ある美しい景観が数多くあります。



年齢別人口の推移と将来人口

【資料：国勢調査、藤枝市人口推計】



土地利用の変遷

【資料：国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ】

第2節 地球環境

■地球温暖化 | 年平均気温が上昇し、21世紀末には現在よりも3～5℃上昇する

- 本市周辺の気象観測地点（静岡、菊川牧之原、川根本町）における年平均気温は、いずれも気温が上昇しています。そのため本市においても気温が上昇傾向にあるものと想定されます。
- 厳しい温暖化対策をとらなかった場合、本市では21世紀末までに気温が3～5℃上昇し、コメの品質劣化や、熱中症搬送者数や熱ストレス超過死者数の増加などの影響が予測されています。

■温室効果ガス | 市域からの温室効果ガス排出量は増加している

- 市域全域から排出された2016（平成28）年度の温室効果ガス排出量は1,030.7千t-CO₂であり、2013（平成25）年度を基準として6.3%増加しています。
- 本市の事務事業から排出された2019（令和元）年度の温室効果ガス排出量は17,599t-CO₂で、2014（平成26）年度比で9.8%減少しました。

■再生可能エネルギー・省エネルギー | 公共施設への導入が進んでいる

- 本市では、公共施設における太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入を積極的に行っており、2019（令和元）年度までに22箇所に導入が進んでいます。
- 家庭における再生可能エネルギーや省エネルギー機器の導入に対する補助を行っており、市内に設置された太陽光発電施設最大出力は、2019（令和元）年度で54,600kWとなっています。
- 景観・自然環境・生活環境の保全、地球温暖化対策の推進を目的に「藤枝市自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例」を2019（令和元）年7月1日から施行しています。

■カーボンオフセット | グリーン電力を活用した取組を行っている

- 本市では、2012（平成24）年度から2019（令和元）年度に実施した53件の事業で排出した温室効果ガスについて、21,620kWhのグリーン電力を活用することでカーボンオフセットを行っています。

■市民などへの取組の普及 | 各種キャンペーンを実施している

- 2018（平成30）年度より「My COOL CHOICE inふじえだ」キャンペーンを実施しています。
- 環境にやさしいライフスタイルの定着を目指した「ふじえだ環境マイレージ」を実施しており、ポイントを貯めると、協力店で様々なサービスを受けることができます。
- 「節電アクションキャンペーン」を実施し、地球温暖化防止行動の習慣化、資源節約型のライフスタイル定着に向けて取組を推進しています。
- 「もったいないエコファミリー宣言」は、2019（令和元）年度までに29,394人が参加しました。

■交通手段 | 電気自動車等の割合は増加しているが、公共交通機関の利用は横ばい

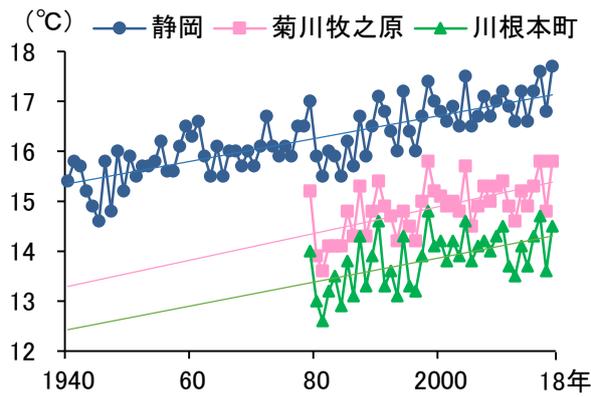
- 本市における電気自動車等（電気自動車、ハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド自動車）の台数は増加しており、全乗用車に対する割合は、2019（平成31）年4月1日現在で21.2%です。
- 本市の移動手段は自動車への依存度が高く、その割合も年々増加しています。
- 2017（平成29）年度のJR東海藤枝駅の年間乗車人員は414.7万人、バスの年間乗車人員は173.2万人であり、ここ数年は横ばい傾向となっています。

■自動車の使用自粛 | エコ通勤優良事業所の認証やノーカーデーを実施している

- 市役所職員の通勤手段を車からより環境負荷の少ない電車やバスなどに利用転換する「エコ通勤」の取組が評価され、静岡県内の自治体では初の「エコ通勤優良事業所」として認証を受けました。
- 「中部5市統一ノーカーデー」「藤枝市統一ノーカーデー」などを実施しています。

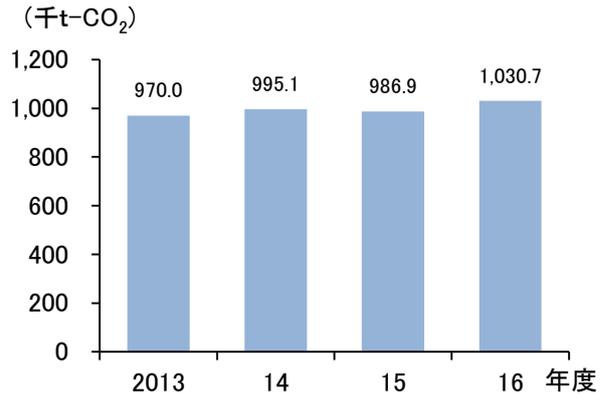
■ヒートアイランド | 市街地の地表面温度が高くなっている

- 本市の地表面温度比の分布について、衛星画像による解析を行った結果、人口の建築物や道路が密集する場所では、地表面が高くなるという現象（ヒートアイランド現象）がみられます。



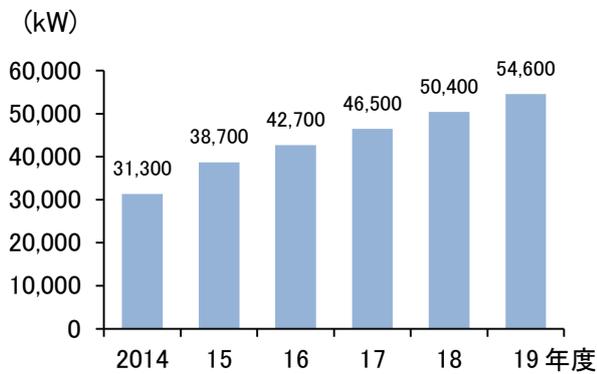
本市周辺の気象観測地点の年平均気温の推移

【資料：気象庁】



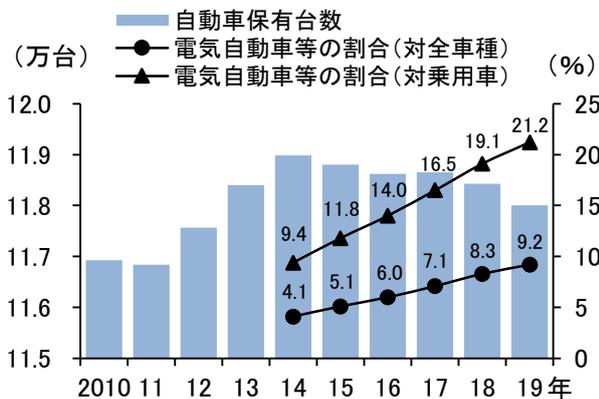
市域全域からの温室効果ガス排出量の推移

【資料：環境政策課】



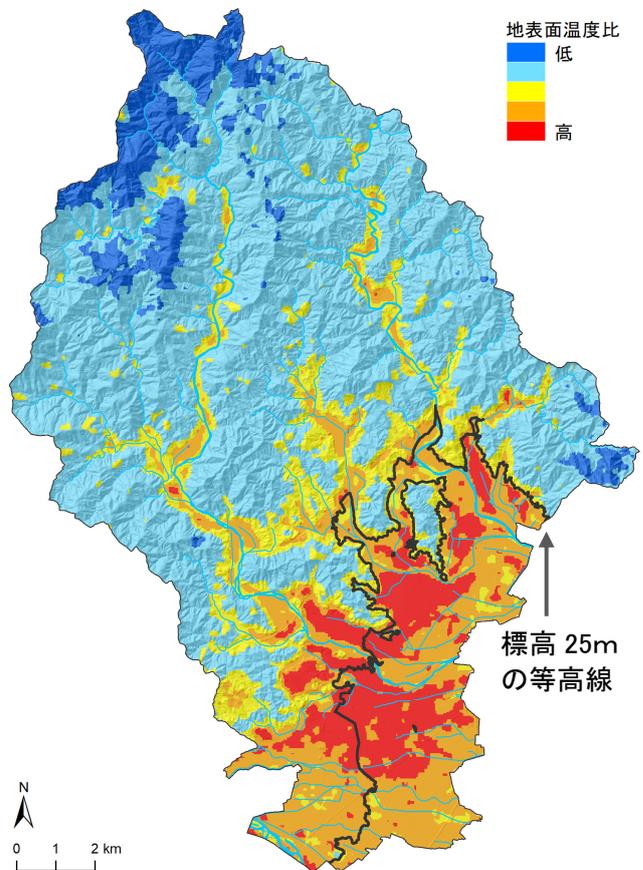
太陽光発電施設最大出力の推移

【資料：環境政策課】



自動車保有台数と電気自動車等の割合の推移

【資料：静岡県の自動車保有台数】



衛星画像解析による本市の地表面温度画像
(最も高い地表面温度に対する比で色区分)

【資料：LANDSAT8/TIRS (2019年5月20日撮影)】

第3節 資源循環

■ごみ排出量 | ごみ総排出量が減少傾向にある

- 2018（平成30）年度における本市のごみ総排出量は28,648t/年であり、減少傾向にあります。
- 2018（平成30）年度における1人1日当たり排出量は690g/人・日で、全国の918g/人・日、静岡県
の886g/人・日よりも少なく、人口同等規模の地方公共団体では、9番目に少ない量です。
- 2018（平成30）年度における燃やすごみの組成は、紙やプラスチックが3割近くを占めています。

■リサイクル率 | 家庭系ごみのリサイクル率は減少傾向にある

- 2019（令和元）年度に市が収集した家庭から排出されたごみのリサイクル率は23.1%で、前年度より若干減少しており、近年減少傾向にあります。

■生ごみ | 生ごみの分別収集、生ごみの処理機器への補助、食品ロス対策を行っている

- 2020（令和2）年4月時点で一部地域（約18,000世帯）を対象に生ごみの分別収集及び堆肥化を実施しています。
- 生ごみ処理機、直接投入型ディスポーザを購入された方に、補助金を交付しています。
- 食品ロス対策として、県の「ふじのくに食べきりやっただね！キャンペーン」との連携、ポスターなどによる啓発、フードドライブなどに取り組んでいます。

■資源物の収集 | エコステーションの設置、古着・天ぷら廃油の収集を行っている

- 資源・不燃物の拠点収集施設を市内3か所（西益津・大洲・岡部）に設置しています。
- 各地区の交流センターで古着の収集を実施しており、年々増加傾向にあります。
- 天ぷら廃油を分別収集し、民間の資源化業者において飼料・肥料・石けんにリサイクルされています。

■レジ袋削減 | レジ袋を削減するための協定を市内スーパーマーケットと締結している

- 2009（平成21）年10月から、市内6事業所とそれぞれ「レジ袋削減に向けた取り組みに関する協定」を締結しています。

■ごみ処理場 | （仮称）クリーンセンターが稼働予定である

- 本市で収集された一般廃棄物のうち、燃やすごみは高柳清掃工場で焼却処理された後、焼却灰の一部は道路路盤やセメントなどにリサイクルされ、残りは民間の最終処分場で埋立て処分されています。
- 志太広域事務組合では新たなクリーンセンターを整備しており、燃やすごみ処理施設及び資源物処理施設が稼働する予定です。
- 焼却処理で発生する焼却灰のうち、リサイクルされない分を民間の最終処分場で埋立て処分を実施しています。本市における、2018（平成30）年度の最終処分量は2,986t/年です。

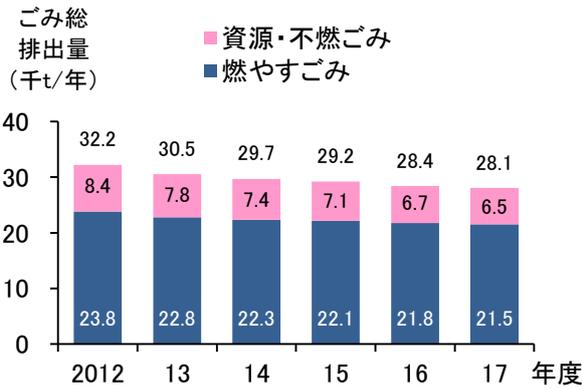
■排水処理 | 下水道の汚水、浄化槽の汚泥などを適正処理している

- 公共下水道からの汚水は、浄化センターで処理後、処理水を瀬戸川に放流しています。
- 農業集落排水処理施設、合併処理浄化槽、単独処理浄化槽などからのし尿及び浄化槽汚泥は、藤枝環境管理センター（志太広域事務組合）で処理後、処理水を大井川に放流しています。

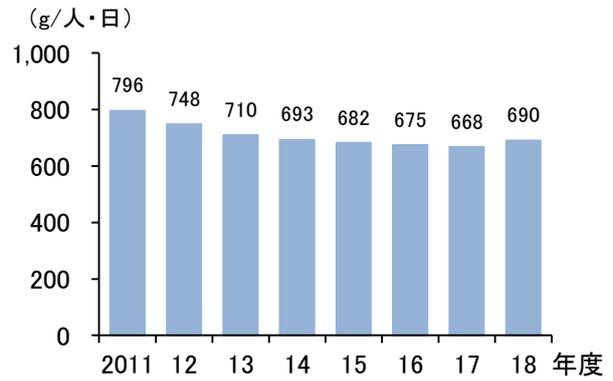
■不法投棄 | 不法投棄や散乱ごみの収集及び監視パトロールを実施している

- 不法投棄の抑制、不法投棄・散乱ごみの収集を目的として、市職員などによる定期的なパトロールを行っているほか、環境衛生自治推進協会委員、環境美化推進員などと連携した不法投棄の監視を随時実施しています。

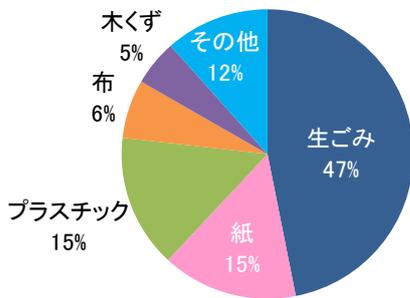
第2章 環境の現状



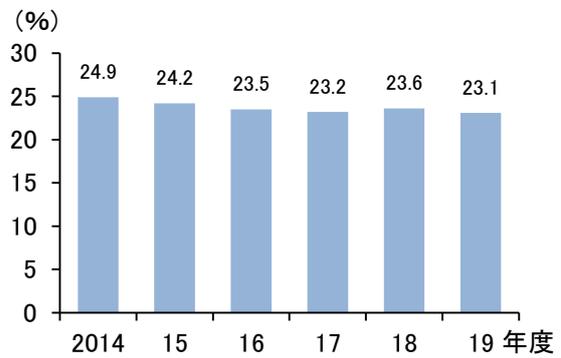
ごみ排出量の推移
【資料：一般廃棄物処理基本計画、
一般廃棄物処理実態調査（環境省）】



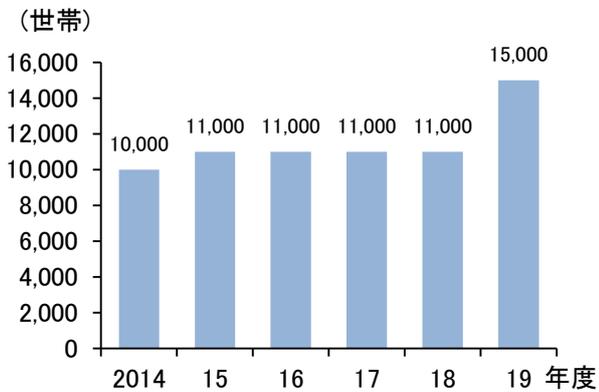
1人1日当たりのごみ排出量の推移
【資料：生活環境課】



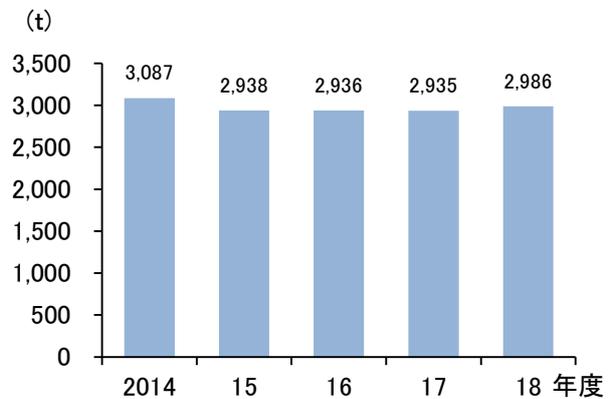
燃やすごみの湿重量組成 (2018年度)
【資料：生活環境課】



リサイクル率の推移
【資料：生活環境課】



生ごみの分別収集年間世帯数の推移
【資料：生活環境課】



最終処分量の推移
【資料：環境衛生事業概要】

第4節 自然環境

■植生 | 植林と二次林が広い面積を占めている

- 本市の山地の大部分は植林（スギやヒノキ）と樹園地（茶畑や果樹園）で占められています。
- 常緑広葉樹林や落葉広葉樹林といった二次林が多く、自然林はあまりみられません。

■森林・竹林・巨樹・巨木林 | 竹林が拡大している

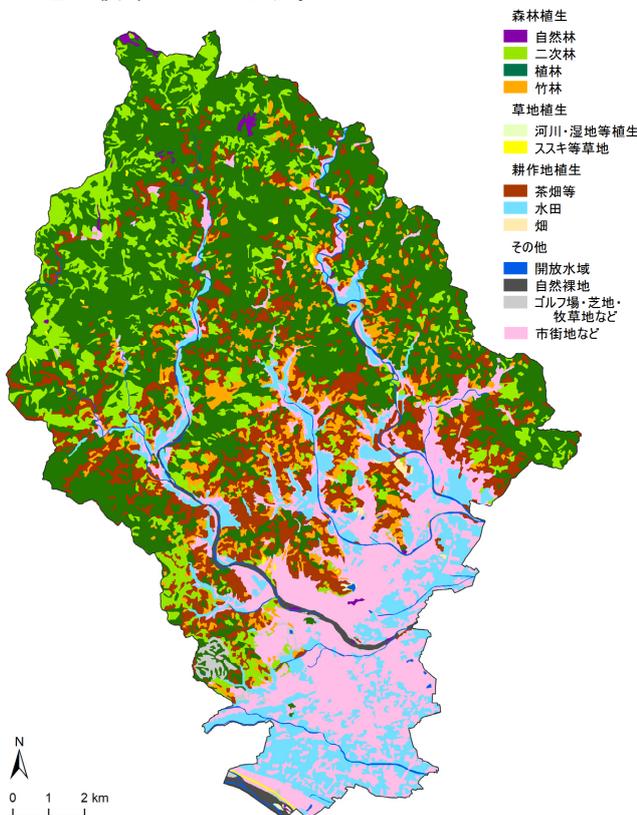
- 本市の総面積の約半分が森林であり、北部から中央部までを占めています。そのうち、人工林面積は2019（令和元）年度時点で5,777haであり、伐採して利用できる林齢の人工林が約60%を占めています。
- 放置竹林が森林や耕作地などへ侵入することにより、竹林面積が拡大しています。そのため、市では放置竹林の対策を実施しており、2019（令和元）年度の放置竹林解消面積は42.94haでした。
- 古木・巨樹・群生地などの生物に関連する天然記念物やその他の古木などは、2019（令和元）年9月30日時点で県・市指定のものが合わせて14件あります。

■農地 | 耕作放棄地の拡大や、イノシシなど野生鳥獣による農業被害が発生している

- 2015（平成27）年農林業センサスにおける本市の耕作放棄地面積は676haであり、近年、増加傾向にあります。
- 本市では、環境負荷の少ない農業に取り組む農業者を支援しており、2019（令和元）年度時点でその取組面積は380.3haとなっています。
- 野生鳥獣による農作物への被害額は、イノシシによるものが全体の8割となっています。

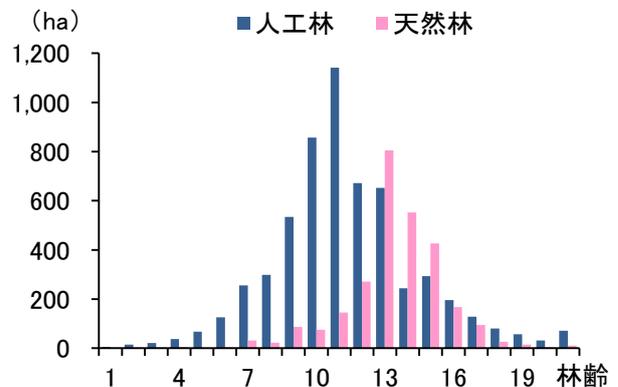
■河川・湧水 | 大井川・瀬戸川・栃山川などの河川、蓮華寺池、湧水などの水辺がある

- 市内には、大井川、瀬戸川、栃山川などが流れているほか、蓮華寺池などのため池、青池や姥が池などの湧水があります。



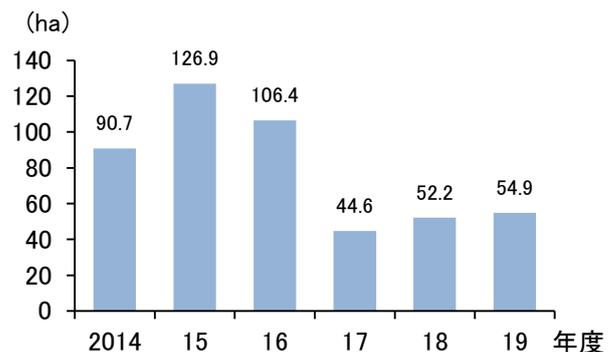
植生図

【資料：自然環境保全基礎調査（環境省）】



民有林の林齢別面積の分布

【資料：藤枝市森林整備計画（2017年）】



年間間伐実施面積の推移

【資料：農林課】